〈第４分科会：学校経営系（農場運営・農業経営者育成・学校特色化）〉

生涯にわたって探究を深める未来の創り手を育成する農場運営をめざして

島根県立出雲農林高等学校　教諭　吉川　樹

１．はじめに

本校は、島根県の農業教育を牽引するリーディングスクールとして、４学科８コースを設置する県内唯一の農業専科の高等学校である。本校が位置する島根県出雲市は人口約 17 万人の都市であり、水稲・ブドウ・カキ・畜産業をはじめ農業が盛んな地域である。しかしながら、農業従事者の７割が 60 歳以上と高齢化が進み、「農業の担い手育成」が喫緊の課題として挙げられる。

そこで本校では、令和元年度より文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」の指定を受け、「出雲を愛する農業人材の育成」に向け、地域の産業界（出雲市・JA 等）と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを推進し、出雲という立地・資源を活かした担い手育成に取り組んできた。

２．研究計画

本研究では、出雲市と学校の共通課題である「出雲農業の担い手・後継者の育成」に向け、出雲農林高等学校支援コンソーシアム（以下、コンソーシアム）を構築する。コンソーシアムは出雲市長を委員長とし、出雲市教育委員会、出雲市農林水産部及び JA しまねを含む関係８機関により構成する（図１）。コンソーシアムでは３つの共通基盤を設定し、生涯にわたって探究を深める教育活動の実践に関わる支援等を行う（表１）。また、年間２回の全体会において活動状況の管理及び方向性について協議・検討・情報共有を行うことで円滑な組織運営を図る。

表１　コンソーシアムにおける共通基盤及び教育活動例

コンソーシアムにおける共通基盤	生涯にわたって探究を深める教育活動例
持続可能な出雲農業の実現	・農業キャリアガイダンス（出雲農業学習）ほか
スマート農業の実現	・スマート農業学習（ICT 機器等の活用）ほか
地域農業の核となる人材育成	・課題解決型学習（出雲縁つなぎプロジェクト）ほか

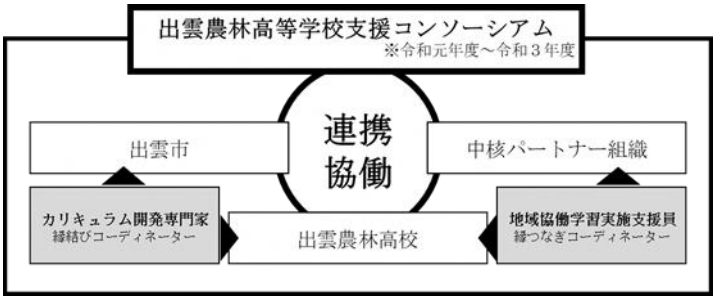

図１　出雲農林高等学校支援コンソーシアム組織図

写真１　全体協議

３．研究の具体的な取組

（１）農業キャリアガイダンス（出雲農業学習）

地域での先進的な経営の取組や、スマート農業の実施事業等についての地域農業関係者の講話による出雲農業学習を展開することで、地域農業が抱える課題解決に挑むチャレンジ精神を向上させるとともに、農業人として課題や困難に立ち向かう高い意欲・探究心を育成し、幅広い創造力育成につなげることを目的に実施した。主な実績は、出雲市内関連企業等への視察研修（４企業）及び地域農業関係者の講話による出雲農業学習（19 企業）を第１学年全学科対象に実施した。

写真２　農業キャリアガイダンス 視察研修・講話受講の様子

（２）スマート農業学習（ICT 機器等の活用）

農業の効率化及び ICT の活用等、分野横断的な連携による Society5.0 への対応を視野に入れたスマート農業学習を展開することで、次世代農業経営への理解を深めるとともに、情報活用能力の向上を図ることを目的に実施した。主な実績は、自走田植機操作講習会、重機事故の VR 体験会、VR 摘粒講習会及びスマート農業機械研修会等を実施した。

写真３　スマート農業学習の様子

（３）地域課題解決型学習（出雲縁つなぎプロジェクト）

各学科と地域による出雲資源を活用した課題研究を推進し、新出雲ブランドの確立等地域農業の活性化につなげ、出雲創生に向け主体的に取り組むことを目的に実施した。令和３年度は、地域農業の課題解決に資する課題研究８テーマ（保安林の保全・ブドウ苗木開発・在来鶏の復活に関わる研究活動等）を出雲縁つなぎプロジェクトに位置付け、各研究活動を展開した。

写真４　保安林の保全　　写真５　ブドウ苗木開発　　写真６　在来鶏の復活

（４）地域の核となる人材育成（文化伝承・普及活動）

ふるさとへの興味関心・貢献意欲を醸成し、地域農業の魅力や課題を再発見する地域課題解決

型学習を展開することで、地域農業の課題解決に向け他者と協働しながら取り組み、習得した知識技能を広く発信するグローカルな精神を持つ、地域農業の核となる人材育成につなげることを目的に実施した。

写真７　出農ショップ

写真８　出農そば部

写真９　駅前花壇装飾活動

４．研究結果

（１）コンソーシアムの取組～「希望の証」の授与～

「希望の証」は、出雲農林高校を卒業する生徒のうち島根県立農林大学校等への進学者、就農者、農業関連事業所及び土木系公務員への就業者へ、コンソーシアム会長（出雲市長）より「希望の証」を授与し、激励することを目的としている。希望の証授与式は令和元年度より執り行い、授与対象生徒は年々増加傾向を示している。

写真 10　授与式の様子

写真 11　授与者集合写真

（２）生徒の進路実績～県内就職率の増加～

本研究では、「出雲を愛する農業人材の育成」を目標に掲げ令和元年度より取組を行っている。平成 30 年度以前における本校生徒の県内就職率は８割台にとどまっていたが、令和元年度から令和３年度にかけて９割を超える県内就職率となった（表２）。

表２．出雲農林高等学校 平成 30 年度から令和 3 年度の進路状況

年度	卒業者計（人）	進学率(%)		就職率(%)	
			うち県外(%)		うち県内(%)
R3	128	51.6	56.1	46.9	93.3
R2	148	52.0	63.6	48.0	97.2
R1	151	55.0	65.1	43.7	92.4
H30	153	58.2	53.4	41.8	81.3

５．考察及び課題

出雲農林高等学校支援コンソーシアムの構築により、出雲市・中核パートナー組織・出雲農林高等学校の三者協働体制による教育活動が実践された。令和元年度以降、本校から就職を進路として選択

した卒業性は県内就職率が非常に高い数値で安定したことから、地域との協働による探究学習をとおして、生徒の「地域に関わりたい」という意欲が向上し、地元定着に結び付いたと考えられる。今後、より高校と地域が構築した組織を効果的に機能させることで、生徒自身の地域への関心や地域との関係を持つ意欲の向上を図ることができるようにするため、継続性を持ったコンソーシアムの組織化を図る必要がある（表３）。

表３．出雲農林高等学校支援コンソーシアム　組織編成について

令和元年度～令和３年度		令和４年度～	
会　長	出雲市長	会　長	島根県立出雲農林高等学校
委　員	出雲市教育委員会	副会長	島根県農業技術センター
委　員	出雲市農林水産部	委　員	島根県畜産技術センター
委　員	島根県農業協同組合出雲地区本部	委　員	島根県東部農林水産振興センター
委　員	島根県農業協同組合斐川地区本部	委　員	島根県立農林大学校
委　員	島根県東部農林水産振興センター	委　員	出雲市農林水産部農業振興課
委　員	島根県農業技術センター	委　員	島根県農業協同組合出雲地区本部
委　員	島根県畜産技術センター	委　員	株式会社フクダ
委　員	出雲市農林水産部（事業担当）	委　員	島根県教育庁教育指導課
委　員	島根県教育庁教育指導課		
委　員	島根県立出雲農林高等学校		
Ｃ　Ｎ	島根県東部農林水産振興センター		
Ｃ　Ｎ	島根県農業協同組合出雲地区本部		

※ＣＮ：コーディネーター

スマート農業に関わる学習では、ICT や IoT を活用しながらスマートに農業を経営することができる情報活用能力をより育成するための学習方法や農場運営方法を検討する必要がある。また、これらの取組を行う上で、与えられた課題や問題に取り組むだけではなく、その取組の中から新たな課題を発見し、更に改善・向上させていく能力の育成が必要であり、日々の学びの中で「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どのように学んだか」を生徒がフィードバックすることができる仕組みが必要となる。今後も、本研究で構築された生徒の学びのプロセスや成果の見える化を図る活動を積極的に実践していきたい。

写真 12 GS トラクタ

写真 13 アグリロボコンバイン

写真 14 アグリロボ田植機